



川井：最近感じるんですが、何か日本語の「文化」という言葉が非常にわかりにくい。文化という言葉の中で、学問、芸術としての文化と生活様式の文化がごっちゃに使われている感じがします。

文化とは楽しむもの

中村：文化の解釈の仕方はいろいろあるかもしれませんが、文化と

育そのものをやっていらっしやるまちだなと思っています。

充実した施設で充実した生涯学習を

川井：平成四年に、第四回全日本生涯学習フェスティバルが宮城県で行われましたが、そのメイン会場が白石だったんです。以降、生涯学習を中心としたまちづくりを一つのテーマにしております。

中村：確かにその通りですね。これは全然別な話ですけれど、鹿児島で新しい立派な県庁ができました。ある人に聞きましたら、ここまで職員の服装が変わるとは思わなかったと言っています。

彫刻制作は環境づくりから

川井：音楽の話ですが、先生はフオーレとかモーツァルトのレクイエムを耳にしながら彫刻をつくっ

ておられるとお聞きしました。ミゼレーレ(注1)などはそのようにしておつくりになったのかなという感じがするんですが、やはり音楽、彫刻いずれも芸術としての共通点があるということでしょうか、それとも先生が音楽も好きだからなのでしょうか。

中村：私も目は通して仕事を

川井：まず最初に、何遍かキューブのブロンズ像の据えつけとか、大砲万右衛門の銅像制作ということと白石においてになっておられますが、白石とはどういうまちだと先生はお考えですか。

白石は歴史のまち 本物指向のまち

川井：やはりお城があって、そして片倉小十郎の菩提寺がある。一つは、いわゆる歴史のまち。それから歴史でなくて人為的なことを考えますと、最先端のキューブのような建物がある。かといって今度また非常に伝統的な建物、つまり能楽堂がございましたね。これらは後世に残るものですが、それをとりまして歴史のまちであると同時に本物の建物、それから本物指向、そんな気がしてならないんです。

中村：やはりお城があって、そして片倉小十郎の菩提寺がある。一つは、いわゆる歴史のまち。それから歴史でなくて人為的なことを考えますと、最先端のキューブのような建物がある。かといって今度また非常に伝統的な建物、つまり能楽堂がございましたね。これらは後世に残るものですが、それをとりまして歴史のまちであると同時に本物の建物、それから本物指向、そんな気がしてならないんです。

中村：やはりお城があって、そして片倉小十郎の菩提寺がある。一つは、いわゆる歴史のまち。それから歴史でなくて人為的なことを考えますと、最先端のキューブのような建物がある。かといって今度また非常に伝統的な建物、つまり能楽堂がございましたね。これらは後世に残るものですが、それをとりまして歴史のまちであると同時に本物の建物、それから本物指向、そんな気がしてならないんです。



(注1) 中村氏の代表連作作品
ミゼレーレⅫ(左)ミゼレーレⅦ(右)



- 略歴
- 1926年 三重県に生まれる
 - 66-67年、69-70年 フランス留学 (アベル・フェノサに師事)
 - 72年 鹿児島大学教授
 - 84年 第16回日展出品作「焦燥の旅路」で文部大臣賞受賞
 - 88年 第19回日展出品作「朝の祈り」で日本芸術院賞受賞
 - 89年 日本芸術院会員に任命
 - 90年 (社)日展常務理事就任
 - 92年 鹿児島大学名誉教授
 - 94年 (社)日本彫刻会理事長就任
 - 96年 パリで「中村晋也展」を開催
 - 97年 (財)中村晋也美術館を設立
 - 99年 勲三等旭日中綬賞を授与

彫刻家 (日本芸術院 鹿児島大学名誉教授)

Nakamura Sinya
中村晋也さん

ホワイトキューブ・コンサートホールホワイエ空間には、私たちの心を和ませてくれるブロンズ像が5体あります。また、二の丸公園には、郷土の横綱「大砲万右衛門像」が置かれ、白石城の観光スポットのひとつとなっています。

21世紀の初頭を飾る新春対談は、これらの制作者で日本彫刻界を代表する中村晋也さんに、半世紀にわたる創作活動を踏まえて、大砲像制作にかかわっての感想、芸術とは何かなどについてお話をいただきました。

作家の言葉が表れているのが芸術、楽しむことが文化

川井：日展の審査主任として発表を終えられたばかりで大変お疲れのところ、今日は対談に快く応じていただきまして、誠にありがとうございます。

先生とは、どういう彫刻をキューブに置いたらよいかということからご縁ができてまして、いろいろとお世話になっております。今日はよろしくお願いいたします。

中村：よろしく申し上げます。

川井：まず最初に、何遍かキューブのブロンズ像の据えつけとか、大砲万右衛門の銅像制作ということと白石においてになっておられますが、白石とはどういうまちだと先生はお考えですか。

中村：やはりお城があって、そして片倉小十郎の菩提寺がある。一つは、いわゆる歴史のまち。それから歴史でなくて人為的なことを考えますと、最先端のキューブのような建物がある。かといって今度また非常に伝統的な建物、つまり能楽堂がございましたね。これらは後世に残るものですが、それをとりまして歴史のまちであると同時に本物の建物、それから本物指向、そんな気がしてならないんです。

ですから、本物のところから本